

# 「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」実現に向けたアクションプラン（案）」

## の意見募集結果について

「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」実現に向けたアクションプラン（案）」に関する意見募集手続きは、令和5年8月1日から8月14日までの期間で行いました。その際、23名より計72件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見及び区の考え方は、以下の通りです。

### 1 意見募集手続きの概要

(1) 意見募集期間

令和5年8月1日から8月14日までの間

(2) 周知方法

ア 区公式ホームページに掲載

イ 令和5年8月1日号の「広報えどがわ」に掲載

※経営企画部企画課窓口に掲載用の印刷物を設置

(3) 意見の提出方法

ア 区公式ホームページ

イ 持込み又は郵送

(4) 提出先

経営企画部企画課企画係

### 2 意見募集の結果

	頂いたご意見	区の考え方
1	素晴らしいと思います。	ありがとうございます。
2	未来の人たちのために今から為すべきことを為すという考え方には賛成です。 区民の声をしっかり聞きながら、実行性のある形で実現に繋げていただきたいです。	本アクションプランの実行体制については別途検討し、実現のための具体的な施策につなげていきます。
3	VUCAの時代において、一度作ったプランを後生大事に使い続けることは意味が無い。アジャイル的に短いサイクルで検証を繰り返しながら、プラン自体を常にア	「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」もそれに基づく本アクションプランも、時代の変化に応じて臨機応変に見直しを図っていきます。

	アップデートしていくべきだと思う。	
4	<p>&lt;共生&gt;</p> <p>この項目のところで、性別の区別がある場所(トイレや更衣室など)における性的マイノリティへの配慮、とありますが、現在渋谷区などでも、女性トイレをなくして、男性用トイレと共同トイレ、の区別にどんどん改修されていますが、この意味が全く分かりません。これはマジョリティの女性差別ですね。</p> <p>渋谷区は、スペースの問題で3つを併用できないので、というものだそうですが、ではなぜ全てが全て、男性用ではなく、女性用をなくすのでしょうか。女性用を残して男性用を無くさないのはなぜか、これが渋谷区だけではなく、他地区にも広がっていますが、犯罪の温床になりかねませんし、実際に海外でも犯罪が起こっており、日本においても以前に女兒が男性に連れ込まれて殺されリュックに詰められた件があったこともあり、非常に犯罪も心配ですし、それがなくても、男性に入ったら、恐怖を感じます。特に小さな女の子にとって、深刻です。</p> <p>江戸川区では、女性用トイレが徐々になくなるようなことにならないように、当たり前の判断をお願いしたいと思います。</p>	<p>区では、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現に向け、さまざまな取り組みを行っています。</p> <p>区が管理するトイレにつきましても、誰もが安全かつ安心して利用していただけるよう、引き続き取り組んでまいります。</p>
5	<p>&lt;感染症への備え&gt;</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応の総括を行うことにより、とありますので、是非お願いいたします。実際、日本において、この新型コロナがワクチンを何度も何度も何度も打たなければならないような感染症であったかは、結果として出ている実際の数字、2020年の超過死亡数と2021年、2022年そして今年の超過死亡数とを比較しても明らかであり、ワクチン接種</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の担当部署として、対応の初期から5類移行までの振り返りを実施し、これまでの活動内容の評価及び反省をしました。このことを今後新たに策定する江戸川区感染症予防計画をはじめ、江戸川区新型インフルエンザ等行動計画、江戸川区新型インフルエンザ等住民接種マニュアル、江戸川区健康危機対処計画の策定及び改定に反映させていきます。</p>

	<p>後と志望者数との相関関係からも見えてくるものがあります。今後のプランデミックに備えるためにも、総括は必ずお願い致します。</p>	
6	<p>&lt;カーボン・マイナスの実現&gt;          温暖化防止のために脱炭素、そしてそのために太陽光パネル、という図式になっていますが、これは本当に正しいことなのでしょうか。葛西臨海公園の樹木を大量に伐採して（これは日本中で行われていて、パネルだらけの禿げあがった山肌、変わり果てた田園、本当に悲しくなります。）パネルを設置することがどうしても環境にやさしいとは思えません。温暖化は、人間が出す二酸化炭素のせいですか？地球は氷河期と間氷期を繰り返して温度が上がったり下がったりしていますが、確かにここ 200 年ほどは上がっていますが、地球の歴史から見たら全体的には温度は下がっています。大昔のほうが人間の活動は少なかったことは自明です。しかし温度は高かったのです。今はたくさん科学的データがみられるので、事実を事実としてとらえなければなりません。国が、温暖化ありき、カーボンニュートラルありきで進んでいるので、一江戸川区としてはそれに従うのみなのかもしれませんが、区としての色を出していただきたく思います。</p>	<p>カーボン・マイナスの実現にあたっては、CO2 を排出した量以上に吸収することが必要であり、みどりの保全も重要な役割の一つです。このため、区内での太陽光パネルの設置については、建物の屋根や壁面などを活用することを想定しています。水とみどり豊かな本区の特徴を 2100 年に引き継げるよう工夫しながら、脱炭素化を推進していきます。</p>
7	<p>人口が減ることが前提になっているようですが、人口が増えれば前提が変わってくると思います。          人口を増やすための方法も考えるべきではないでしょうか。</p>	<p>本アクションプランでは、人口減少を緩和させるための取り組みとして、「ひとづくり」と「まちづくり」についても記載しています。</p>
8	<p>各アクションプランの目標数値と目標年次がないのは何故ですか。「図っていきます」「目指します」と言うだけなら何とも言えます。</p>	<p>本アクションプランにおいては 2100 年までの取り組みを示したのもので、対象とする期間が長期にわたるため、目標とする具体的な数値や年次は設定していま</p>

	<p>また、アクションプランを行ったとして、人口減少、財政規模の縮小、行政職員の減少というリスクを本当に解消できるか繋がりが見えません。3つのリスクの目標値は定めないのでですか。</p>	<p>せん。社会情勢や時代の変化に応じて、適宜目指す方向性や取り組み内容を見直していきます。</p>
9	<p>夏休みの宿題で読みました。区の仕事のことはわからないけど学校でみんなが集まったら楽しいしカブトムシがとれる公園もあったらいいな。 スカイツリーでカブトムシいっぱいみたけど近くにいたらもっと楽しいです。 2100年って先のことだけどみんなでがんばることが大事だと思いました。</p>	<p>区の良いところ(人とのつながり、豊かな水とみどり)をさらに伸ばし、2100年に向けて引き継いでいけるよう、本アクションプランを実行していきます。</p>
10	<p>住宅政策について具体的に計画してほしい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 築 50 年を超える戸建てが増えていく中、都市計画、再開発計画を公示してほしい</li> <li>・ 戸建て、低層階住民の避難モデルを考えてほしい</li> <li>・ 投資用マンションの建設は反対</li> </ul>	<p>区では、以下のような取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区では、老朽建築物対策は重要な課題として捉えており、耐震化や、除却工事に対する助成を行っています。また、老朽建築物が多く建ち並ぶ小岩地域等では、密集住宅市街地整備促進事業や市街地再開発事業など、市街地環境の改善を図っています。今後も同様の課題を抱える地区を対象に、多様な事業手法を活用して市街地整備を進めていきます。</li> <li>・ 大規模な水害が発生した場合、区内の避難所も水没してしまい、避難できる場所は限られます。たとえ水没しない高層階へ避難したとしても電気・ガス、水道等が使えない状態で長いところでは2週間以上生活しなければなりません。また、台風シーズンは9月、10月と蒸し暑い時期なので衛生環境もあまり良いとは言えずに過酷な生活をしなければなりません。そのため、本区では、浸水の恐れがないより安全な区外へ事前に避難していただく、広域避難を推奨しています。</li> </ul> <p>2050年頃になると、現在進めている「災害に強いまちづくり」が完成形に近づく</p>

		<p>と見込んでおり、避難方法も様々な選択肢が考えられる時代になると想定されます。</p> <p>・多様な世帯によるバランスの良いコミュニティ形成と住み続けることができる住まいを確保するため、住宅整備基準条例で住居面積の規定を設けるなど、ゆとりを持って住み続けることができる住まいの確保を誘導しています。</p>
11	<p>ぜひ子供たちに明るい江戸川区を残してほしいです。</p> <p>調べてみると人口が減っているようにみえますが、江戸川区は環境がいいのに多くの人に魅力が伝わっていないのかなと思います。</p> <p>私の周りには他の区と比べたり、ワイドショーネタで比較して話す方が多いですが、なんか悔しいです。</p> <p>このプランのすべてに目を通したわけではないですが、区役所が考えていることが伝わりました。リンクで付いてたビジョンはとてもイメージがわくもので、区役所らしくなくて好感もてました。</p> <p>少子化と未来を突き詰めて進んでほしいです。</p>	<p>本アクションプランをはじめ、その前提となっている「ともに生きるまちを目指す条例」や「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」など、できるだけ多くの方に手に取って理解していただけるよう、様々な工夫をしています。今後も区からの情報発信について、多くの人に伝わるものとなるよう努めていきます。</p>
12	<p>手当や補助金を見直すと書いてあるが、どのようなものを見直すのか、決まっているものがあるのであれば具体的に記載するべきではないかと思う。</p>	<p>現時点で、見直しの対象として決定しているものはありません。本アクションプラン策定後、区民の声を聴きながら、見直しの対象や内容などについて検討を進めていきます。</p>
13	<p>区役所はもっとスリムであるべき 他の自治体と競い合うのでなく、基本を充実してほしい</p>	<p>人口減少に伴う職員数の減少を見据えて、業務の見直しや効率化を図りながら、区民の生命・財産を守るために、本アクションプランの実現に向けて取り組みを進めていきます。</p>
14	<p>44 ページ 防災 6 みんなが避難できる高台まちづくり</p>	<p>高規格堤防は、「人命を守る」ということを最重視し、人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する</p>

	<p>下から 5 行目の「高規格堤防の整備」について</p> <p>高規格堤防は高台なので、水害発生時の避難できる場所(避難場所)として整備していくとのことですが、これはよくないと考えます。理由</p> <p>1, 堤防に避難に行くということは、川に近づくということで危険です。洪水発生が予想される時、気象庁やメディアは、川に近づかないでくださいと注意を呼びかけます。川を見に行行って戻ってこなかったとニュースが流れることもあります。</p> <p>2, 水害発生が予想される時は、近くの学校や、区の施設などに避難所が開設されます。まっすぐ避難所に行くように周知すべきです。</p> <p>高規格堤防に行っても、避難所ではないので長くいられません。そんなところに行ったら、さらに避難所に移動することになります。以上。</p>	<p>可能性が高い区間である 120 k mについて、国が整備区間として指定しています。陸域の 7 割がゼロメートル地帯である江戸川区にとっては、越水しても決壊しない高規格堤防の整備が必要です。</p> <p>現在篠崎公園地区で実施中の高規格堤防と一体となった高台まちづくりは、大規模浸水時に命を守るための一時的な避難場所になると考えています。</p>
15	<p>44 ページ</p> <p>防災 6 みんなが避難できる高台まちづくり について</p> <p>高台まちづくりのすべてが良くないというわけではありませんが、現在、篠崎公園地区で行われているような高台まちづくりは良くないと考えます。</p> <p>理由</p> <p>1, 堤防の上に家を建てるのは不安</p> <p>高規格堤防と共同実施となる土地区画整理事業では、高規格堤防盛土の土地に家を建てることとなります。江戸川区は全体的に低平地で、地下に軟弱地盤が存在します。高規格堤防では、この土地に最大約 5~6m もの盛土を大規模に行います。</p>	<p>現在篠崎公園地区で実施中の高台まちづくりは、高規格堤防と一体のまちづくりであり、安全な宅地利用が図れる盛土・宅地造成を行っています。また、高規格堤防の整備にあたっては、権利者や区民の方々の理解・協力が不可欠であると考えています。今後も丁寧な説明を行いご理解を得ながら、地域コミュニティーの維持に努めてまいります。</p>

	<p>2017年に北小岩東部地区で国交省が行った高規格堤防の盛土では、予想外に地盤強度不足が多数発生しました。篠崎公園地区では、この点の改善が図られていることとは思います。しかし、自然の土地に人間が大規模に手を加えると、完成してすぐの時には問題ないように思えるものでも、長い年月の経過や、大地震の発生時に問題が起こらないか心配されます。</p> <p>2、地域のコミュニティを壊す</p> <p>現在、高規格堤防の工事が行われている篠崎公園地区では、土地区画整理事業を進めてあいだに、住民があまりにも減ってしまいました。北小岩東部地区の場合も土地を去った方々がいると聞いています。住民に負担が大きいからです。それまで住んでいた住民が減ってしまうまちづくりでいいのでしょうか。水害や地震などの災害が発生したときに頼りになるのは、なんとと言っても近所同士の助け合いのはずです。高台まちづくりはやり方によっては、地域コミュニティを壊したり弱めたりすることになることもあると考えます。以上。</p>	
16	<p>「人が減る、区の財源が縮小する、今までと同じように施策が続けられない」の前提はどうなのでしょう。施設建設やインフラはそうかもしれませんが、福祉や教育などは充実できるチャンスではないかと思えます。「人に寄りそう施策」こそ人を増やす道です。</p>	<p>区では、人口減少や財源の縮小に伴い、職員数も減少すると見込んでいます。そうした中で、福祉や教育の分野においても、役割を終えた施策や新たに必要となるサービスなどを見極めながら、必要な区民サービスを提供できるよう、常に見直しを図っていきます。</p>
17	<p>「学校をさまざまな活動の拠点に」は、現在でも避難所・施設開放などが行われています。しかし、学校関係者の負担で行われているのが実態です。本当に拠点とするのであれば、区として人的配置を含む対応が必要です。また、何より学校長だけでなく広く教職員の意見も集めて進める</p>	<p>学校をさまざまな活動の拠点として環境整備を進める際には、学校や地域の皆様のご意見を踏まえるとともに、教職員の負担も考慮しながら運営方法を検討していきます。</p>

	べきです。そうでないと本当の拠点にはなりません。「中学校の温水プール」も同様です。学校プールは、安全管理、水質管理など他の施設管理とは異なる厳しい点を考慮すべきです。	
18	「共生」でおまつりと防災を軸にしたイベント中心のつながりは大事ですが、町会・自治会のもっている地域コミュニティの役割をもっと広く広報してもらいたい。残念ながら新住民の入会世帯の減少に歯止めがかかっていません。区として補助金だけでなく、地域担当の職員の配置を増やす必要があります。	町会・自治会の重要な役割として、行政と協働で「防災」「防犯」「環境」など多岐にわたる地域課題に取り組んでいることを、区HPや広報えどがわ、地域イベント、区転入者へチラシ配付など機会を捉えた広報をしてきました。今後はさらに、町会・自治会が自ら情報を発信できるよう、SNSの活用などについて、地域とともに探っていきます。
19	「窓口のいらない区役所」IT活用は大事ですが、「人に寄りそう」区政には「窓口」が大切です。「窓口をなくす」に力点を置くのではなく、多様な形での区の施策へ区民が近づけるような「窓口」を広げることです。	デジタル技術の活用は、窓口をなくすことが目的ではなく、手続きや相談をオンラインで行うことができる体制を構築し、区民サービスの利便性を向上させることが目的です。一方、身近な相談・交流や、地域のネットワークづくりも引き続き重要であり、本区ではその拠点として「ミニ区役所」を整備していくことを目指しています。
20	「にぎわいづくり」エンタメ施設の建設は区の仕事ではありません。箱モノで経済成長を図る時代ではありません。はじめの話からずい分と生臭い話になってきてます。	区内外から人が往来する施設を整備することで、区全体の経済の活性化も期待できます。区のさらなる魅力向上や賑わいの創出に向けて検討していきます。また、施設整備においては、民間資金の活用可能性も検討していきます。
21	最後に、意見募集が2週間しかも後半はお盆の時期、このパプコメ募集はひどすぎます。本当に「区民と進める区政」を目指すならば最低1カ月ぐらいの期間はあってしかるべきです。今からでも遅くありません。募集期間の延長を求めます。	一度にすべて目を通していただくのは難しいのではという思いのもと、今回は二段階での意見募集を行いました。まずは「広報えどがわ7月1日号」において、今回の一連の計画・条例の考え方をご紹介したうえで、それに対する意見募集を実施し、応募フォームや郵送、窓口アンケートなどにより、多くのご意見をいただきました。8月1日からの意見募

		集 (パブリック・コメント) はその第二弾として実施したものです。今後もより良い運用方法を模索していきます。
22	<p>資料 p. 42 「カーボン・マイナスの実現」について</p> <p>脱炭素政策を進めるなら、なぜ脱炭素政策を進めなければいけないのか、CO2 が地球温暖化や異常気象の原因になっているのか、前提を区民に対して説明してください。</p> <p>地球温暖化について、気象庁の公式発表で日本は過去百年当たりで 0.7℃気温が上昇したとのことで、1990 年から 2020 年までの 30 年間では 0.2℃程度しか気温が上昇していないとのことです。0.2℃の気温上昇は人間が体感できる温度差ではないため、地球温暖化の影響はほぼありません。</p> <p>また異常気象について、台風や集中豪雨などの発生数も末尾の参考記事によると、実際は数が増えていないそうです。そんな人間生活にほぼ影響がないものに対して、我々から集めた貴重な税金を使ってほしくはないです。そんなことに我々の税金を使うより、その税金をとることをやめた方が多くの人の生活を楽にし、救うことができます。なのでそんなことに我々の税金を使わせようとする脱炭素政策の推進をやめてください。</p> <p>また脱炭素政策を推進しておきながら、太陽光パネルや蓄電設備の普及促進をするのでしょうか。太陽光パネルや蓄電設備を生産する際に発生する CO2 の方が、それらの耐用年数で削減できる CO2 の量の方が多いです。なので太陽光パネルや蓄電設備の普及は脱炭素政策になりません。それにウイグル人の奴隷労働によって作られている中国製の太陽光パネルを</p>	<p>地球温暖化とは、人間の活動に起因して大気中に放出される CO2 等によって、地球が暖められる現象です。このうち、私たちの生活に直接的な影響を及ぼすのが、温暖化を原因とした気候変動であり、特に将来的な自然災害の激甚化が懸念されているところです。この気候変動を抑えるためには、CO2 などの排出量を削減する「緩和」が最も必要かつ重要な対策と位置付けられています。「緩和」の具体化にあたり、本区は、様々な観点を考慮しつつ、最も効果的な手法を常に検討しながら、脱炭素化を推進していきます。</p>

	<p>普及させることは、人権侵害を江戸川区が擁護することになります。自分は決して擁護できません。</p> <p>上記の理由から「カーボン・マイナスの実現」には全力で反対させていただきます。よければ上記を書く上で参考にさせてもらった以下の記事をお読みになってみてください。</p> <p>(参考記事)「地球温暖化」のウソに騙されるな</p> <p><a href="https://cigs.canon/article/20220404_6683.html">https://cigs.canon/article/20220404_6683.html</a></p>	
23	<p>江戸川区の 100 年後の将来を左右するような重要な計画であるにもかかわらず公表日は 8/1 で、募集締切日は 8/14 までと期間が短すぎます。</p> <p>それにホームページに掲載したのみなので、本当に江戸川区は区民の意見を聞く気があるのかと疑問があります。</p> <p>ほとんどの方がこういう意見募集がなされていること自体を知らされていないので、もっと大々的に広報して意見を募るようにしてください。</p> <p>今回の意見募集のみで決して終わらせないでください。</p>	<p>一度にすべて目を通していただくのは難しいのではという思いのもと、今回は二段階での意見募集を行いました。まずは「広報えどがわ 7 月 1 日号」において、今回の一連の計画・条例の考え方をご紹介したうえで、それに対する意見募集を実施し、応募フォームや郵送、窓口アンケートなどにより、多くのご意見をいただいたところです。8 月 1 日からの意見募集（パブリック・コメント）はその第二弾として実施したものです。今後もより良い運用方法を模索していきます。</p>
24	<p>アクションプランで、少子高齢化、人口減少を、より住みやすいまちへのチャンスと捉え、実現するために。</p> <p>1) 介助、介護を必要な人が雇用を生み、持続可能にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介助、介護の必要度は、障害の種別が同じでも、環境、性格、性別（性自認）、資産等々さまざまな要件が絡み合い人それぞれ違います。また、1 日 24 時間など、常時介護を必要とする人、部分的に必要とする人、時と場合により必要とする人など、これもまた千差万別です。</li> <li>・幾つになっても、どのような障害があ</li> </ul>	<p>8 月には、区民の声を直接聴く場として「区民と区職員による政策提案プレゼンテーション」を開催し、多くの方にご参加・ご視聴をいただきました。今後も本アクションプランの実現に向けて、様々な場を活用しながら区民の意見を聴いていきます。</p>

っても、障害のない人との機会の平等とプロセスや結果の公平を実現するのに必要な考え方のベースが、国連の障害者権利条約が示す社会モデルです。

- ・私たちは、ともすると、平等をただ分配（予算配分）の平等（同額）を重視するあまり、平等と公平を履き違えてしまいがちです。

- ・必要な支援、サービスの内容は一人一人違って当たり前で、必要度に合わせて分配の内容に柔軟性を持たせることが公平です。

- ・人間が活着ている限り、介助、介護は持続可能な公共事業です。

- ・防災も健康管理も保育、教育もちろん自助は必要ですが、「自助、共助、公助」を優先順位として捉えるのではなく、お互いが横並びで連動し補完し合うような関係づくりが必要です。

- ・人間社会は互いに依存し合ってこそ自立できるものですが、障害児・者、高齢者など介助、介護を必要とする人は、公助を信じられる関係性、実態があつてこそ自助が可能になるものです。

- ・国の制度の谷間に陥ってしまう人自治体の独自制度で救える江戸川区に。

- ・大人も子供も、どのような職業の人も、学生や生徒児童も、区民の誰もが社会モデルを学べる場と機会を作つていきましょう。

- ・そのためにも、いろいろな種類の障害当事者の意見を聞き、一緒に考え町を作つていきましょう。

- ・インクルーシブ保育、教育を当たり前にして、多様性、違いを自然と受け入れ認め合い、誰も取り残さないインクルーシブシティー江戸川区を実現させましょう。

25	<p>「ともに生きるまち」の理念に基本的に賛成。だれもが安心して自分らしく暮らせる街の実現に力を尽くすのが行政の仕事です。子どもを含む区民からの意見に常に耳を傾け、行政と区民と双方向を大事にしていきたい。</p>	<p>「2100年の江戸川区（共生社会ビジョン）」の実現のために、今後も区民の声を聴きながら取り組んでいきます。</p>
26	<p>P29の「学校を様々な拠点に」とあるが、学校の空き教室や体育館などを開放することはあっても学校図書館の開放は、今のサテライトが限界と考える。学校図書館の書籍貸し出しを行うのは学校図書館法と矛盾してくる。また、学校は教育の拠点であり、P30のコミ館は社会教育の拠点と位置付けるべき。コミ館廃止には反対。コミ館にミニ区役所の機能を持たせる。P51・52にあるミニ区役所のイメージから窓口機能だけではなく交流拠点や地域サポートも行うとあるので、コミ館機能も含めた複合施設が利便性が高いと考える。民間事業者との協働は、窓口の民間委託であり、個人情報の取り扱いを民間に委託することになるため反対。</p>	<p>公共施設を有効活用するため、学校も含めた施設経費の効率化が必要です。学校は最も身近な公共施設であり、地域の拠点ともなるよう工夫していきます。なお、図書館サテライトは学校図書館の資料の貸し出しはせず、公共図書館の資料の貸し出しを行っています。</p> <p>また、ミニ区役所の機能は他の公共施設との複合化も含めて区内各地に整備していきます。</p> <p>コミュニティ会館の機能は維持し、学校の活用や他施設との複合化等により人口の減少に合わせた施設数や規模の適正化を図ります。</p> <p>民間事業者との協働については、施設の整備における考え方として記載しています。</p>
27	<p>P30のいざという時に機能する「共助」の力を強くするとあるが、それぞれ町会自治会の力量の差が大きい。おまつりやイベントがない町会もあり個別の支援が必要。</p>	<p>地域まつりや区民運動会、また防災訓練などを通じて、お住いの地域で顔の見える関係づくりを町会・自治会と共に取り組んできました。</p> <p>今後も、地域の声を聞きながら広域的な事業を継続していくとともに、単一町会のお困りごとについては、それぞれの事情を伺いながら区民課・各事務所の地域サービス係が支援してまいります。</p>
28	<p>平和の灯を守る活動に触れているのは大事なこと、東京大空襲と原爆資料館をそれぞれ充実させ、学校の平和教育を支援していく。</p>	<p>区内団体のご意見を伺いながら、引き続き平和の灯を守る活動を行ってまいります。</p>
29	<p>P34の事業者支援では、常に実態調査を踏まえた施策を展開する。大学や病院など</p>	<p>施策の参考として承ります。</p>

	の誘致、農地保全、伝統産業振興を積極的にすすめたい。	
30	P37 の働き方では、まず区役所の臨時職員の最低賃金を引き上げる努力をすすめる。	会計年度任用職員の報酬額は、東京都の最低賃金及び他団体における同一職種の報酬等を踏まえて設定しています。江戸川区では、今後も社会情勢等を注視しつつ、会計年度任用職員の適切な報酬額の支給を行ってまいります。
31	P42 のカーボン・マイナスの目標は実現させたい。省エネのための断熱材の活用の推進、非化石エネルギーは課題がある。 (水素・アンモニアは費用が掛かりすぎたり生成過程でCO2の発生があったり)	カーボン・マイナスの実現にあたっては、CO2を排出した量以上に吸収することが必要であり、みどりの保全も重要な役割の一つです。併せて、エネルギーの地産地消を目指し、最も効果的な手法を常に検討しながら、脱炭素化を推進していきます。
32	P44 の高台街づくりに高規格堤防整備を含めるのは反対。高規格堤防は、住民犠牲、費用の増大、数百年かかり実効性がない。	高規格堤防は、「人命を守る」ということを最重視し、人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間である120kmについて、国が整備区間として指定しています。陸域の7割がゼロメートル地帯である江戸川区にとっては、越水しても決壊しない高規格堤防の整備が必要と考えており、今後も国や都と協働し着実に進めてまいります。
33	P49 の「新規建設は民間による整備や民間機能との併設」とあるが、PFIを行うとすれば、PFIは課題が多く反対。PFIでコストの低減や収益性の確保ができる保証がない。	さまざまな民間の活力・ノウハウも活用し、区の負担を軽減させ、質の高いサービスを効率的に提供できる方法を検討していきます。
34	P54 のAI活用は、先端技術を研究するのは当然だが、判断は慎重に対応すべき。三重県児童相談所の一時保護の判断をAIを参考にしたために手遅れになった事態を重視し、事態の確認は経験のある職員が責任をもって判断すること。	AIなどの先端技術の活用と並行して実施する職員のリスクリング(研修)において、AIの特性を正しく認識し、業務に適用するためのリテラシーの向上も図っていきます。
35	P55 で受益者負担を示しているが、行政サービスと受益者負担は慎重に検討するべ	適切な受益者負担について具体的に検討する際には、区民の声を聴きながら検討

	<p>き。例として家庭ごみの有料化を示しているが、有料化ではなくごみの削減や分別に力を入れていくなど。積立基金を計画的にとあるが、積立基金の確保のために受益者負担増では、区民の支持は得られない。</p>	<p>を進めていきます。</p>
36	<p>P57 では意見募集の仕組みづくりとあるが、今回のパブリックコメントの募集期間2週間は短い、また、意見を反映させ、再度提案という形をとり、町会や自治会の役員さんからも意見を聞くことを繰り返していくことが必要。すでに行っていたら、そのような経過も含めて区民に知らせていく。情報の透明性が信頼を高める。</p>	<p>一度にすべて目を通していただくのは難しいのではという思いのもと、今回は二段階での意見募集を行いました。まずは「広報えどがわ7月1日号」において、今回の一連の計画・条例の考え方をご紹介したうえで、それに対する意見募集を実施し、応募フォームや郵送、窓口アンケートなどにより、多くのご意見をいただいたところです。8月1日からの意見募集（パブリック・コメント）はその第二弾として実施したものです。今後もより良い運用方法を模索していきます。また8月には、区民の声を直接聴く場として「区民と区職員による政策提案プレゼンテーション」を開催し、多くの方にご参加・ご視聴をいただきました。今後も本アクションプランの実現に向けて、様々な場を活用しながら区民の意見を聴いていきます。</p>
37	<p>P75 の民間事業者活用の公園リニューアル事業開始とあるが、区民の意見を引き続き聞いていくという文言をしめすべき。</p>	<p>アクションプラン全体を通して、区民の意見を聴きながら取り組みを進めていくことを共通の考え方としています。</p>
38	<p>P76 では新たな大型施設の提案があるが、区内外から多くの人を訪れる、区の象徴となるような魅力ある施設整備の要望がどのくらい区民からよせられているのか。国際交流センター以外のはじめての提案である。受益者負担や民間委託がすすめられたら、区民の公共財産がどう使われるのか心配。</p>	<p>2100年に向けて魅力あるまちとしていくために、区のさらなる魅力向上や賑わいの創出に向けて、新たな施設の整備や誘致も必要だと考えています。</p>
39	<p>“冒頭部分”</p>	<p>今後も「ともに生きるまちを目指す条例」</p>

	<p>○江戸川区に住んで 10 年以上たちますが、愛着は生まれる子どもたちもすくすく育っています。未来へ向けたメッセージには共感しますし、時すでに遅しとにならないようにするためにも、この考えを発信し続けてほしいです。</p>	<p>や「2100 年の江戸川区（共生社会ビジョン）」の理念、考え方が多くの方に伝わるよう、周知活動を続けていきます。</p>
40	<p>“人”</p> <p>○以前（確か数か月前）、新聞の記事で学生さんが寄せたコメントが掲載されました。福祉の充実した北欧にはあまりスロープなどがなく周りがサポートする習慣が身についているとのこと。多様性を認め合う文化が根付いていて、いつの時代か「障害って言葉は昔あったみたいだけど、今はないね」という時代がくればいいというような趣旨でした。生きづらさを感じずに暮らせる社会が理想です。</p>	<p>「2100 年の江戸川区（共生社会ビジョン）」にも、目指す 2100 年の姿として『「障害者」や「LGBTQ」みたいな人をカテゴリーわけする言葉はなくなっている』という記載があります。「ともに生きるまち」の実現に向けて取り組みを進めていきます。</p>
41	<p>“社会”</p> <p>○学校は避難所にもなりますし夏なら盆踊りの会場にもなります。教員の長時間労働や PTA など問題ばかり指摘されますが学校は地域住民の憩いの場所です。そんな新しい学校に少しずつ生まれ変わればみんなも憩うのではないのでしょうか。</p>	<p>今後とも学校が地域の皆様にとって憩いの場所となるよう、将来に向けた環境整備を検討していきます。</p>
42	<p>“経済”</p> <p>○自分の親や子を大病院に連れていくにはやはり都心に行くしかありません。もっと身近にあればいいのに・・・と思います。小さな医院はありますが、やはり命に関わる大きい病気の場合は近くに大病院があると助かります。臨海病院か江戸川病院しか選択肢がないのが現状ではないのでしょうか。</p>	<p>区内の身近な場所に病院が立地することで、区民の利便性や医療水準の向上などが期待されます。病院の確保については、区民の意見を聴きながら、積極的に検討していきます。</p>
43	<p>“環境”</p> <p>○江戸川区に住んでいると公園には本当にお世話になります。大人はこなれているかもしれませんが、自然動物園などは</p>	<p>今後もボール遊びができる公園も含めて公園のあり方を検討し、公園整備を行っていきます。</p>

	小さい子が目を輝かせています。ボール遊びができる公園も増えれば大きいお子さんも遊びやすいと思います。土地はまだあると思います。	
44	<p>“未来”</p> <p>○公共施設はほとんど使いません。今は民間のサービスも充実しているので、再編整備は必要不可欠です。これが負の遺産となれば未来は暗くなるばかりです。施設の利用料金も、こんなに安いとは思いませんでした。ある意味、民業圧迫ではないでしょうか。見直しは必要だと思います。</p> <p>○ICT 化が進みこれからは大きく時代が変わります。デジタルデバイドに配慮しながら新しい技術を使う必要があると思います。</p> <p>○区民参加は機会と時間が合えば参加したいですし、若い世代の声をきく場面も充実させてほしいです。</p>	<p>いただいたご意見を参考にしながら、公共施設の再編整備や適切な受益者負担の検討、ICT 化など未来に向けた取り組みを進めていきます。またそれにあたっては、若い世代の方も含め、区民の声を聴く機会を設けていきます。</p>
45	<p>“最後”</p> <p>○少子化は現状に驚きました。国は手詰まり感があります。江戸川区の取り組みに期待します。</p> <p>○江戸川区は都心とはちがう街ですが、何かもっと魅力あるものがあってもよいと思います。</p>	<p>区では「えどがわ 50 の子育てプラン」として、少子化対策・子育て支援策をとりまとめています。現在計画中の施策も含め、着実に実行していきます。また区の魅力については、今後長期的に「魅力あるまちづくり」を推進していきます。</p>
46	<p>友人が今月の政策提案プレゼンテーションに参加します。</p> <p>以前の江戸川区にはあまり無かった取り組みだと思います。</p> <p>今後も、こうした広く声を聞く取り組みを充実してください。</p> <p>区民は政策のプロではないですが参加できるのはうれしいことです。</p> <p>それが江戸川区の明るい未来につながるはずです。</p>	<p>政策提案プレゼンテーションへのご意見ありがとうございます。8月に実施した当イベントには、多くの方のご参加をいただくことができました。今後も様々な場を通じて区民の意見を聴き、区政運営に活かしていきます。</p>
47	2030年の江戸川区 SDGs ビジョンの中の、	江戸川区 SDG s ビジョンにて示される共

<p>性の平等と多様性について、未就学児を含め、学校教育現場での行き過ぎた教え込みは、くれぐれも慎重にお願いしたいと要望します。そもそも、性の志向は個人の好みの問題であり、わざわざ学校で教える内容ではないのではないのでしょうか。実際の性と心に違和感のある子どもたちはケアが必要ですが、発達途上の子供たちの性は揺れ動き、早急に結果を決めるのは極めて危険です。まして、幼児期から教えることには、害でしかありません。</p> <p>差別はいけないこと、というのは憲法でもうたっており、そもそも日本は性に対して歴史的にも極めて寛容な社会が続けられています。あえて教育現場で性の多様性という名のもとで、個人の性の好みについて教育するというのは、理解に苦しみます。</p> <p>LGBT 法案が、あのようにあまりにも早急に十分な議論もなく通過したのは、何らかの意図があることはもはや隠すことはできません。これを強引に通して教育現場にも取り入れることにより、すでに海外で顕著になっている混乱が、このままいけば日本でもこれから起こることになることは自明です。</p> <p>このような教育を行う場合には、親への通知と承諾を事前に行うことを要望します。子供たちの健全な成長を、利権のために犠牲にしないでください。 何卒、宜しくお願い申し上げます。</p>	<p>生社会の実現に向け、各学校においては、自分のことも他の人のことも大切にできる子どもの育成に努めているところです。</p> <p>性の平等や多様性については画一的に指導するのではなく、子どもたち個々の心情や背景をしっかりと鑑み、それによって子どもが苦しんだり、生活しづらくなったりすることがないようにしていきます。教員は研修等を通して性の平等と多様性についての理解を深めていくとともに、必要に応じて保護者と連携していきます。</p> <p>無理解や無配慮によるいじめや差別が起きないように、これからも適切に指導をしていきます。</p>
<p>48 <b>【全般】</b> プラン(計画)の経緯や理由の説明が不足している。言い換えると、トップダウンと</p>	<p>本アクションプランは、2100年という長期的な施策の方向性を示したものであり、ご指摘いただいたとおりに時宜に合っ</p>

	<p>しての政策の宣言に終わっている。計画の内容を、同じ水準で他の方策と比較検討してその方策に絞った経緯や理由が表明されていない。旧来のウォーターフォール型の開発と類似した硬直した姿勢が伺われる。不透明な未来に対するためには柔軟な施策が必須と考えられる。そのためには、検証と見直しは必要な方策であり、具体的な手順(時期、方法、公表等)を明記しておくことが重要である。</p>	<p>た柔軟な取り組みが必要であるため、あらかじめ具体的な手順等を定めておくことをしていません。社会情勢や時代の変化に応じて、適宜目指す方向性や取り組み内容を見直していきます。</p>
49	<p><b>【環境1 (P41)】</b> 「みどり豊かな」まちの計画を「公園整備」に絞り込む過程が不分明である。また、人口減少を課題として挙げているのにも拘わらず「区民1人あたり」の「公園整備」というのは解せない。77年後にも変わらないと考えられる例えば区の面積などの指標に対する割合として、緑被率20%のように「みどり」の目標量を目標値として設定すべきである。</p>	<p>「環境とともに生きる」に、「豊かなみどりの維持とさらなる緑化推進」という項目を追加しました(p.42)。区民一人あたりの公園面積に加えて、みどりの目標として「みどり率」という指標を追加します。</p>
50	<p><b>【防災6 (P44)、防災に強いまちづくり(P72)】</b> 「公園の高台化」は計画として不十分である。公園の高台化の目標値が適切であるかどうかを示されていない。まちなかの公園もすべて高台化するのであれば、区の計画として理解もできようが、今回の資料に示されているのは篠崎公園のみで、みんな(70万区民)のうち、どれほどの区民が避難できると言えるのかが示されていない。数値目標を明確にするべきである。</p>	<p>陸域の7割がゼロメートル地帯である江戸川区にとっては、越水しても決壊しない高規格堤防の整備が必要です。現在篠崎公園地区で実施中の高規格堤防と一体となった高台まちづくりは、大規模浸水時に命を守るための一時的な避難場所になると考えています。</p>
51	<p><b>【防災6 (P44)、防災に強いまちづくり(P72)】</b> 高規格堤防の整備は高台まちづくりに該当しない。篠崎公園地区では、高規格堤防の基本断面形に公園盛土や緑地盛土をまちづくりとの調整を図ったとして追加し</p>	<p>高規格堤防は、「人命を守る」ということを最重視し、人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間である120kmについて、国が整備区間として指定しています。陸域の7割がゼロメートル地帯である江</p>

	<p>た盛土を施すことにより、「高台化」を実現しようとしているようである。追加する盛土が計画堤防高を超えることは超過洪水による越水対策として妥当ではない。また、高規格堤防の整備を今後77年間推進しても、整備は完了しないであろうし、2050年からは「災害に強いまちづくり」から「魅力あるまちづくり」に比重を置いてゆくのであれば、さらに整備率は低くなるだろう。もともと高規格堤防はその設計水位までの超過洪水に対して決壊しないように設計しているものであり、「決壊しない堤防」と括ることはできない。</p>	<p>戸川区にとっては、越水しても決壊しない高規格堤防の整備が必要です。</p>
52	<p><b>【防災6（P44）、災害に強いまちづくり（P72）】</b></p> <p>「高台まちづくり」は計画として検討が不十分である。高台まちづくりの推進主体が国と都であるように表記されているが、もっとも中心となるべき推進主体は区であり、そのことが明確に分かるように表記すべきである。「高台まちづくり」はその設計基準、耐災害効果が明確でなく、区の施策として適切ではない。7割がゼロメートル地帯であるなら、国や都によりかかるのではなく、7割を高台化するのだといった区としての施策があつてしかるべきであろう。</p>	<p>これからも区民の生命・財産を守るために、国や都と共に安全・安心な高台まちづくりに取り組んでまいります。</p>
53	<p><b>【防災6（P44）】</b></p> <p>「中高層の建物と建物をつなぐデッキを整備する手法」もその効果が明確になっておらず、計画として不相当である。「みんなが避難できる」ことを担保する設計仕様・達成目標が示されていない。避難人数と避難動線をどのような量で達成しようとし、それらは必要な対策の目標値に対してどれほどの量として見積もっているのかがまったくわからない。</p>	<p>本区では大規模水害時には広域避難を前提としていますが、広域避難ができなかった場合の一時避難場所を創出するとともに、最低限の避難生活や浸水区域外への動線を確認する手法のひとつとして建物群による高台まちづくりを推進しています。</p> <p>実施に際し、整備手法や避難人数、避難動線などの具体的な内容を地区の特性等を踏まえながら整理していきます。</p>

54	<p>【災害に強いまちづくり (P72)】 新庁舎をつくるよりも、防災にお金をかけるべきでしょう。</p>	<p>現庁舎は、老朽化や狭あい化が進み、災害時に十分な機能を確保できない可能性があるため、新庁舎建設においては「災害対応の拠点」として、現状の課題を解消し、区民の安心のより所となる庁舎を目指しています。</p>
55	<p>【防災7 (P45)】 「浸水被害を最小限にくいとめる」方策として「避難用ボートの整備も進めていく必要」とあるが、具体的な整備場所、整備内容、保管費用などが示されていない。他の方策との比較検討も示されていない。</p>	<p>浸水しない区内学校計8校(※1) 除く区内小中学校及び都立高校等計107校、区役所本庁舎、各区民館5館に一艇ずつ合計113か所に配備しています。江戸川区ではウレタン製のボートを配備しており、空気漏れや断裂によるパンクの心配がありません。加えて、高い浮力を持っているため水が船内に浸入しても沈まないボートとなっています。また、ゴムボートやアルミボートなどと比べても災害時の厳しい環境下の使用に耐えることができます。現在、保管費用はかかっています。</p> <p>(※1) 浸水しない学校8校: 清新第一小、清新ふたば小、臨海小、小松川中、清新第一中、清新第二中、旧清新第二小、紅葉川高</p>
56	<p>P44「みんなが避難できる高台まちづくり」とP73「災害に強いまちづくり」に明記されている「高規格堤防」について意見を述べます。</p> <p>・「高台まちづくり」は、川から離れた内陸で実施すべきです。水害時、堤防上を避難場所とすることは、むしろ危険であると思います。住宅が建ち並ぶところにどれほどの避難場所が確保できるのかも疑問です。</p> <p>・「高規格堤防」は土を盛るだけの工法であり、過去には地震で崩れた箇所があります。区内では小岩地区で地盤強度不足の問題もありました。また、小松川地区の</p>	<p>高規格堤防は、「人命を守る」ということを最重視し、人口が集中した区域で、堤防が決壊すると甚大な人的被害が発生する可能性が高い区間である120kmについて、国が整備区間として指定しています。陸域の7割がゼロメートル地帯である江戸川区にとっては、越水しても決壊しない高規格堤防の整備が必要です。</p> <p>現在篠崎公園地区で実施中の高規格堤防と一体となった高台まちづくりは、大規模浸水時に命を守るための一時的な避難場所になると考えています。</p> <p>高規格堤防の整備にあたっては、権利者や区民の方々の理解・協力が不可欠であると考えています。今後も丁寧な説明を</p>

	<p>ボックスカルバートを通る補助 122 号線は豪雨で冠水、通行止めとなったことがあります。国交省の「アンダーパス部の道路冠水注意箇所マップ」には区内で唯一、「高規格堤防」と一体となった本道路が掲載されていますが、事業中の篠崎地区でも同様の形状で道路事業が計画されており、「高台まちづくり」「災害に強い」と言いながら、道路を低いところにつくることで、防災向上とは相反する箇所を増やしてしまうのではないかと危惧します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・防災上の課題に加え、盛り土のために更地にする必要があることから、当該住民が住まいの再築や転居を余儀なくされたり、コミュニティが分断されることも問題です。</li> <li>・「越水しても壊れない」とされてきた「高規格堤防」ですが、さまざまな課題を抱えたままであり、こうした課題を直視すべきです。未だ整備率が 3 %程度であることが整備困難な事業であることを物語っています。地球沸騰化の時代に、36 年も前に制度化された「高規格堤防」は継続していくべき事業なのか。越水に至る時間を引き延ばす堤防など、他の堤防工法と、安全性、有効性、経済性などの比較検討を行い、市民とともに十分検証したうえで、今後の方針を決めるべきと考えます。</li> </ul>	<p>行いご理解を得ながら、地域コミュニティの維持に努めてまいります。これからも区民の生命・財産を守るために、国や都と共に安全・安心なまちづくりに取り組んでまいります。</p>
57	<p>2100 年の江戸川区(共生社会ビジョン)について          実際は以下 URL の『2030 年の江戸川区(SDGs ビジョン)』のハンドブックで「SDGs=共生社会(ともに生きるまち)」と記載されている通り、国連が勝手につくった構想である SDGs を元につくったビジョンであるにもかかわらず、資料 p.7</p>	<p>SDGs は 2015 年の国連サミットにおいて採択された目標であり、日本も国連加盟国です。区としても「SDGs と共生社会は理念を同じくするもの」という考え方をとっています。しかし「2100 年の江戸川区(共生社会ビジョン)」は、SDGs をもとに作成したものではなく、「目指す 2100 年の姿」や「その実現のための取り組み」</p>

	<p>「なりゆきまかせで発展は続く？2100年は？」のスライドには『多くの人々から意見をいただき、理想の江戸川区を描いたのが... 「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」です」と記載されており、『2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)』はさぞ区民の意見を元につくった構想だと見せかける印象操作に最大の違和感があります。</p> <p>どうして我々が選んだリーダではない国連の人たちが勝手につくった構想に我々区民が従わなければいけないのでしょうか？</p> <p>2030年の江戸川区 (SDGs ビジョン)  <a href="https://www.city.edogawa.tokyo.jp/edg/vision/vision2030-01.pdf">https://www.city.edogawa.tokyo.jp/edg/vision/vision2030-01.pdf</a></p>	<p>について、広報誌や区HP、ワークショップ、オンラインミーティングなど、様々な手段を用いて区民から寄せられた9,000件を超える意見を、一つに紡ぎ合わせて作り上げたものです。</p> <p>参考)  「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)」巻末の「2100年の江戸川区ができるまで～みんなのえどがわ大会議～」  <a href="https://www.city.edogawa.tokyo.jp/documents/38693/vision2100-01.pdf">https://www.city.edogawa.tokyo.jp/documents/38693/vision2100-01.pdf</a></p>
58	<p>共生について外国人労働者や性別・性自認について寛容にしたことで治安や社会道徳が低下しすみにくい社会になった事例が海外を中心にいくつかある。多言語表記ではなく日本語、日本文化教育の推進をお願いしたい。また性犯罪の増加の懸念に十分配慮する必要があることを明記してほしい。</p>	<p>区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現を目指し様々な取り組みを行っています。その実現のためには、国籍や民族、性別等にかかわらず、等しくその人権が尊重され、地域社会に受け入れられる必要があります。</p> <p>同時に、地域社会へ円滑に適応できるように、外国人向けには日本語教育や生活マナーの啓発、行政サービスの多言語化等に取り組んでまいります。</p>
59	<p>健康について、区は病院に行くかたが減る(未病段階で対応する)方策を推進してほしい。個人の健康状態を区に情報集約するのは非常に抵抗がある。</p>	<p>区は生活習慣の改善や健(検)診の適正な受診など、予防の取組を引き続き推進していきます。また、区は区民の健康情報が安全・安心のもとに活用されるよう十分留意し、適切な疾病予防やより良い医療提供のために、今後も国や関係機関と連携していきます。</p>
60	<p>経済対策として外国人への支援についての言及があるが、一切行わないでいただきたい。区の事業は江戸川区民への投資でこそ理解できるが、納税したお金が外</p>	<p>区は、誰もが安心して自分らしく暮らせる共生社会の実現を目指し、経済対策をはじめ、さまざまな支援を行っています。外国籍の方も大切な区民の一員です。</p>

	国籍の方に一次的に支援されるのは大変問題がある。	行政サービスを誰もが平等に受けられるよう引き続き取り組んでまいります。
61	カーボンニュートラルなど科学的に検証が不十分であり、また江戸川区の排出量が全世界をみたときに温暖化等にどれほどの影響を与えているのか。アメリカや中国にこそ削減をさせるべきで、江戸川区が率先して経済的に不利な課題に取り組む必要性は全くないため、関連する項目を削除していただきたい。	脱炭素化は、国の成長戦略の一つです。より多くの方に成長の果実が行き渡るよう、感度を一層高めながら取り組んでいきます。
62	公共施設の統廃合や利益者負担について、公共施設が使いたいときいつでも使えるという姿が理想ではないか。であれば稼働率ではなく施設利用申し込みの段階でバッティングした率など多面的に検討してほしい。また受益者だけが負担した場合の金額に対して現在の金額を単純に比較するのであれば、納税する必要はどこにあるのか？。議論が非常に乱暴。	適正・公平な受益者負担については、今後随時見直しをしていきます。
63	学校建替えの基金は本来の受益者である未来世代につけにするべきものであり、積み立てを考慮するのはおかしい。相応の額は借入し未来世代に負担してもらふべきとの考えもある。	地方債には住民負担の世代間公平のための調整機能があるとされています。しかし、今後は高齢化に伴う社会保障経費の増加等に加えて、人口減少が加速化し、歳入も減っていくことが見込まれます。このような状況下でさらに負債を未来に残してしまうと、未来世代の負担が非常に大きくなってしまふと考えられます。そのため、本区は起債ではなく基金で適切に対応し、健全財政を堅持しながらも将来世代に負担を先送りしない行政運営をしていきたいと考えています。
64	魅力的な街になるように区が施設をつくるのではなく、魅力的事業を行う方を育成し、誘致するようにすべき。民間が自然と江戸川区の魅力を高めるような活力が沸く支援をお願いしたい。	今後も、民間の力を発揮していただけるような「魅力あるまちづくり」に取り組んでいきます。
65	慎重にすすめるべきところは実施にあたっての課題も記載し、悪影響に目をつむ	今後具体的に検討を進めるにあたっては、メリット・デメリットあわせて明示す

	らないようお願い致したい。	るなど、できるだけ情報をオープンにし ながら、区民の意見を聴いていきます。
66	<p>・「適正・公平な受益者負担」の議論については、公共のあり方の根本に関わるものであり、広く区民的に議論されるべきではないか？</p> <p>・杉並区では、広く区民の参加も募って、「施設再編を考えるシンポジウム」を開催している。</p> <p>本区においても、こうした姿勢が必要ではないか？</p> <p>今回のような、2週間という短い期間に、多数の案件(条例案と合わせると7件)について区民意見を聴取することには無理があり、区民の幅広い理解とともに進む姿勢が必要ではないか？</p>	8月には、区民の声を直接聴く場として「区民と区職員による政策提案プレゼンテーション」を開催し、多くの方にご参加・ご視聴をいただきました。今後も本アクションプランの実現に向けて、様々な場を活用しながら区民の意見を聴いていきます。
67	健康増進のためスポーツクラブに入会している人に、なんらかのメリットを。	健康増進のため、スポーツをはじめとした運動習慣は重要です。いただいたご意見も参考にしながら、今後もより多くの区民が気軽に運動に取り組める環境づくりを進めていきます。
68	元職員や区民からの提案を受け付けする取り組みをしては。提案は文書でなくても可とし、場合によっては話を聞いて文書化する。	8月には、区民や区の職員から政策を提案する場として「区民と区職員による政策提案プレゼンテーション」を開催し、多くの方にご参加・ご視聴をいただきました。今後も本アクションプランの実現に向けて、様々な場を活用しながら区民の意見を聴いていきます。
69	2年前まで古い案内板が残っていた。管理のための台帳づくりを。	今後も案内板や案内図を所管する各部署において、適切に管理をしていきます。
70	案内図や案内板には、「距離」や「徒歩〇〇分」の表示を。	今後も案内板や案内図を所管する各部署において、よりわかりやすい表記について検討していきます。
71	「こんな物がほしいので区内で作ってはどうか」という提案を区で受け付けて、それを区内事業者が制作し、産業の発展につなげる取り組みをしては。	施策の参考として承ります。
72	区内事業者から「こんな特許や実用新案	施策の参考として承ります。

	を持っているので有効に使ってほしい」という提案を区で受け付ける取り組みをしては。	
--	--	--